



チェンマイ大学

Chiang Mai University

タイ王国



●学部学生 約27,000人 ●大学院生 約7,700人 ●教職員 約11,000人

ホームページ <http://www.cmu.ac.th/>

交流協定締結年月日：1990年4月24日 主管学部：農学部



チェンマイ大学正門



第2回チェンマイ大学・嘉義大学・香川大学
合同シンポジウム



看護学部学生IO長表敬訪問

国際交流の特色

タイ北部のチェンマイ市（首都バンコクから北に飛行機で1時間）に位置する。1964年にタイ北部に最初に設立された高等教育機関として、教育、研究、地域貢献、国民文化・環境の保全に多大な実績を上げてきた。タイの大学ランキングで教育と研究の両面で最高レベルの評価を受けている。2019年に創立55周年を迎えた。市内3ヶ所と周辺1ヶ所を合わせたキャンパスは、1,400haと広大である。21学部、大学院、3カレッジ、1スクール、1研究所を有し、学部生約27,000人、大学院生約7,700人が在籍する。日本に留学したことのある教員も多い。キャンパス内に学生寮のビル群がある。留学生用の上級な寮もある。近年の国際化は目覚しく、ASEANのハブ大学としてメコン川流域圏のミャンマー、ラオス、カンボジア、ベトナム等の周辺国から積極的に学生を受入れている。人文学部には日本語学科に加えて日本研究センターもある。チェンマイは京都のように美しい古都であり、文教と観光の都市である。標高は約300mあり、バンコクに比べて気候は涼しく、日本人には暮らしやすい。2019年10月14日付の同大学のホームページには、我国の台風19号による被災者へのお見舞いが掲載された。

交流実績（令和3年度～令和5年度）

年度	教育学部			創造工学部			農学部			法学部
	R3	R4	R5	R3	R4	R5	R3	R4	R5	R5
受入・派遣										
学生の受入	0	0	0	0	0	1	4	1	4	0
学生の派遣	0	10	12	0	0	0	0	0	0	2
研究者・職員の受入	0	0	6	0	0	5	0	0	9	0
研究者・職員の派遣	0	4	3	0	1	0	0	1	0	0
オンライン交流参加者（本学）	46	56	37	29	0	5	32	16	0	0
オンライン交流参加者（相手機関）	48	2	3	13	0	2	170	12	0	0

年度	医学部医学科			医学部看護科			インターナショナルオフィス		
	R3	R4	R5	R3	R4	R5	R3	R4	R5
受入・派遣									
学生の受入	0	0	7	0	0	5	0	3	4
学生の派遣	0	0	0	0	0	6	0	0	0
研究者・職員の受入	0	0	10	0	0	1	0	0	16
研究者・職員の派遣	0	2	2	0	2	1	0	0	0
オンライン交流参加者（本学）	40	33	3	21	1	0	118	12	3
オンライン交流参加者（相手機関）	62	24	1	43以上	1	0	157	40	1

教員・学生からの声

教育学部とCMUの人文学部は2011年2月に細則を結びました。教育学部では毎年3月頃にCMU人文学部に学生を連れて行きます。また、夏にはCMUの学生を受け入れており、教員を目指している学生にとってもコミュニケーション能力を育成するのにとても役立ちます。

教育学部教授 佐藤 明宏

私たちはチェンマイ大学短期留学プログラムに参加しました。CMUのバディ達と毎日関わることで、自信をもって臆せず人と話してみる「話せる英語の力」が鍛えられました。また、CMUのバディ宅、カレン族の村への2度のホームステイ体験を通じて、今でも連絡を取り合う交友関係を築くことができました。タイで関わった方々は、言葉もなかなか通じない私たちに、みなとても優しく親切で、料理体験を手伝ってくれたり、一緒にナイトサファリやボクシング体験、ショッピングやご飯に行ってくれたり、2週間タイ文化を十二分に味わうことができました。さらに、このプログラムを通して、自ら考え、実行してみるチャレンジ精神、未知のものを受け入れる力が鍛えられ、人間として成長する経験ができました。

教育学部3年生 中野風花、松本友樹、宇藤圭祐、小泉亮輔

私たちは医学部医学科の医学実習II科目の一環として、2020年2月17日から3月6日までの3週間、タイのチェンマイ大学医学部附属病院にて実習をさせていただく予定でした。配属先は私たちの希望によりInternal Medicineに決定し、1週目は循環器・呼吸器の男性病棟での朝と夕方の回診が主な実習でした。回診での学生への手厚い指導、医師国家試験のレベル以上の講義、休日にも講習がある等、タイの医学教育のモチベーションの高さに感心したものです。しかし、新型コロナウイルスの影響により2月25日から29日まで寮に隔離され、3月1日には日本に帰ることとなりました。隔離中はストレスを感じることもありましたが、チェンマイ大学の医学部生や日本に来たことのある看護師さんたちの気遣いのお陰で、乗り切ることができました。このように、予定とは異なる短い留学でしたが、貴重な体験を得ることができました。

令和2年度医学科6年生 廣西 紋

2023年8月、私はチェンマイ大学看護学部の交換留学プログラムに参加しました。このプログラムは台湾の2校、日本の3校での合同プログラムでした。プログラム中は、タイの看護についてや伝統療法についての授業、病院見学、地域の施設訪問などを実施しました。病院見学では、タイの学生が実際に患者に医療技術を実施しており、看護学生の実習レベルの高さに驚きました。しかし施設環境は空調設備が整っていないなど、日本のように十分なものではありませんでした。他国の医療水準などを、自身の目で見て感じる事が出来ました。他国の学生と一緒に授業を受け、互いに意見交換していくことで、日本以外の医療、看護についてより知ることができ、私自身の看護に対する意識が変化したように思います。また他国の学生の能動的に授業を受ける姿に刺激を受けました。私自身このプログラムを通して、より医療の知識、英語の能力を向上し、グローバルに活躍できる看護師になりたいと思いました。

令和5年度看護学科4年生 竹内 琴乃

私たちは今年、2021年12月にチェンマイ大学を含む5つの大学でさくらサイエンスプログラムの支援によりzoom上での国際交流を行いました。このプログラムでは、それぞれの大学が特色・地元紹介するとともに、将来の交通に関する政策の方向性について議論を行いました。海外の学生たちと、それぞれの都市が抱える問題について議論することができ、日本と違った都市・交通問題や解決策への様々な視点を知ることができたと思います。オンライン上でしたが、このような形で国際交流ができたことに、非常に嬉しく思いました。新型コロナウイルス問題が終息したら、ぜひ海外の都市の現状を見ることに加えて、学生とも交流し、コミュニケーション能力についても身に付けたいです。

創造工学部4年生 中地遥菜

本学とチェンマイ大学(CMU)との学術交流協定の締結後に、二度のJICAプロジェクト(1993-98, 2003-06)で、多くの教員・研究者が往来して植物バイオテクノロジーや省農薬技術の指導・研修が行われ、これが希少糖、生物資源利用、農業経済、植物病理・栄養、昆虫等の多様な共同研究に進展しています。CMUの農・農産・理の3学部から多数の優秀な留学生を受け入れ、特に2002年からのAAP特別コースによってその数が増えました。両大学間の広範で多数の交流実績に基づき、本学はCMUを海外国際交流拠点校と定め、そのプラットフォームとして2007年に第一回合同シンポジウムをCMUにて開催し、農・工・医学部等の教職員・学生45人が参加しました。その後、交流は文系3学部等にも拡大し、2回目を2008年に本学にて(CMUの43名を招聘)実施し、以降隔年で交互に開催しています。2009年からの農学研究科のアジア人財資金構想事業以降、食の安全を学ぶ留学生を輩出し、JASSO支援のSSやSVプログラムの実績も挙げました。2012年から修士課程(CMUは農学と農産学の2研究科)のダブルディグリープログラムが始まり、CMUからは、ほぼ毎年1名程度名受け入れており、本学からは昆虫生態学で2名を派遣しました。また、CMU農産学部の実施する国際シンポジウムInternational Conference of Food and Applied Bioscienceが2年おきに開催されており、毎回1~3名の本学教員・学生が招待を受け、研究交流を行っています。

農学部教授 川村 理

インターナショナルオフィスはチェンマイ大学(CMU)と学生の派遣・受け入れの双方を実施しています。「Explore」というプログラムを通して、交換学生として学部生を派遣しています。通常は年に2、3名です。受け入れに関しては、日本語と英語による授業やフィールドワークを含むSanuki Programというプログラムを実施し、特別聴講学生を受け入れている他、日本語学科から、国費の「日本語・日本文化研修留学生」も多く受け入れてきています。CMU・国立嘉義大学(台湾)・本学が開催している3大学合同シンポジウム(上掲写真)においては、運営を担当している他、学生・教員の参加を促進しています。

インターナショナルオフィス准教授 高水 徹